

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス「湧気自然塾」		
○保護者評価実施期間	8年 2月 21日		8年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	8年 2月 21日		8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 理論に基づいたプログラムをもっていること 集団の中で活動できるプログラムになっている スタッフが同じ方向で支援指導できる 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画・基本プログラム等をもとに、事業所オリジナルの個別プログラムを作成し、支援を行っている。 日々、当日の取組や一人一人の様子や学びについて、細かく記録をとり、振り返りや次回の支援の参考にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の打ち合わせ後、スタッフは必ず個人プログラムを読み込み、共通理解することを習慣化する。 共通の支援をするために自主的に意見交換をする。
2	<ul style="list-style-type: none"> 集団での療育を行っていること 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が互いがモデルとなり合えるよう、スタッフ1人子ども2～3人の小グループづくりを配慮をしている。互いが手本となり合い、良い手本を見ることで、よい行動が感化され、成功体験を積み要因となっている。 マイナスの声かけでなく、良い所を認めるプラスの声かけを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、子ども同士が手本となり合えるような集団づくりを行う。 スタッフの誰もがスキルアップしていけるよう、事前に共通理解の場を設け、観察・実践する。失敗と思われる時は、他のスタッフが適切な支援をその場で行い、スタッフ各自が自覚できるようにする。(即時プログラム有) スタッフ同士も、互いが良い手本となれるよう、良いチームづくりをめざす。
3	<ul style="list-style-type: none"> 独自のプログラムの中に「地域の学び」があること 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の子どもは地域で育てる」スタンスで地域の方々が様々な体験活動を行ってくれている。ボランティアとの関わりは、日々のトレーニングの応用になり、また将来、地域の中で過ごしていく上で、良い繋がりができている。 地域ボランティアのローテーションや内容にも配慮してもらえよう、事前に相談をしている。(季節に応じた内容等) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ボランティアの来訪に留まらず、地域に出ていく機会を広げる。「昔語りの公演」や「作品展」への参加を続ける他、長期休業中を中心に、町内外の場所(那岐山、蛇淵の滝、菩提寺、B&G、山野草公園、ファーマーズ、各運動公園等)や行事(歌の集い、傑作展等)に出かける計画を今後も積極的に行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 広い空間でのトレーニングができないこと 	<ul style="list-style-type: none"> 室内に2つの和室を合わせてフローリングのトレーニングルームをつくっているが、室外には、元々の設え上、広い空間がないため、工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体のコントロール力向上のために、柔軟性、バランス感覚、体幹性等をつける事をさらに充実させる。 戸外にある地域施設の活用を増やす。
2	<ul style="list-style-type: none"> 非常災害時(緊急時)の避難訓練をより充実させること 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は曜日によって異なるため、避難訓練週間として、取り組んでいるが、時間的な制約や出欠の関係から、利用者によっては限られた内容での訓練にとどまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> バリエーションを広げる。(火事・地震・水害等) 目的をもった訓練の各回数を増やし、利用者全員が様々な訓練にしっかり参加できるよう計画する。 非常災害時に備え、常時、室内でも履物を履いて活動する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとってより魅力のある事業所となるため、面白いと思える環境づくりを行うこと 	<ul style="list-style-type: none"> 時間的な制約の中で、様々なトレーニングをしているが、全体の管理上、見守り易い場での活動に偏りがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊べる(子どもにとって面白い)時間の確保を考える。 おもちゃ図書館から借りるおもちゃ・図書館から借りる本類・ボードゲーム等をさらに充実させる。 スタッフで安全な見守りに工夫を行う。 子ども達自身がトレーニング自体の充実感や成就感を得られるよう、配慮・工夫を意識して進める。